韓国の七奪を論破④

日　韓　の　真　実

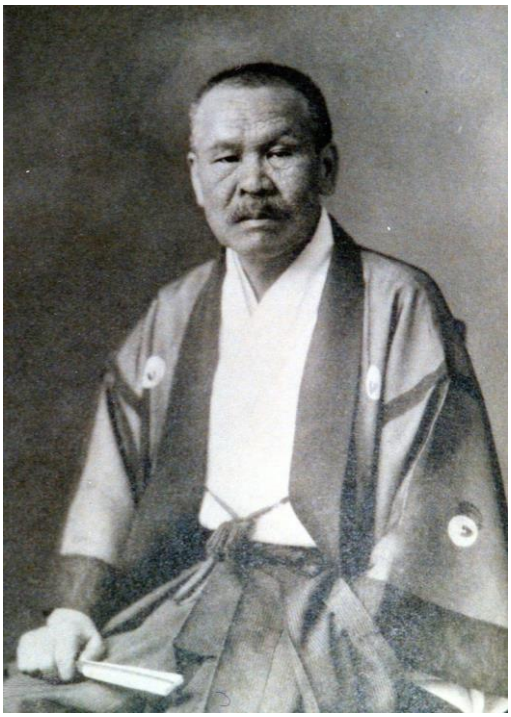
⑷「国語を奪った」への反論

福沢諭吉が再発見したハングル

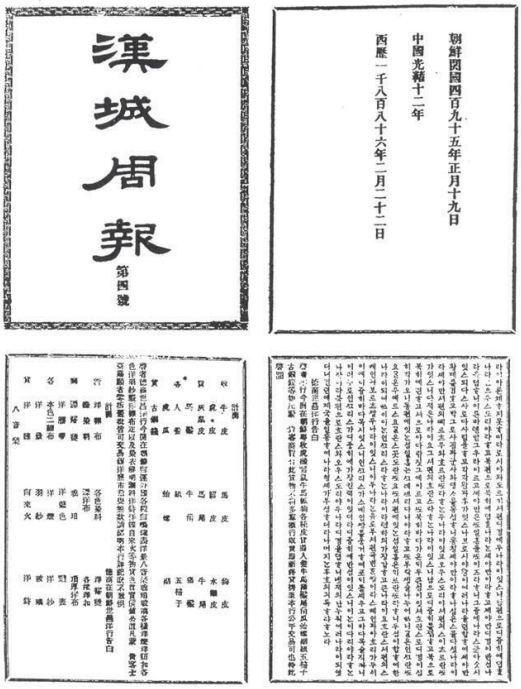
韓国の小学校教科書には「日本は我々の誇り高いハングルを使わせなかった」と書かれ、また「朝鮮語で喋れば一語一銭で罰するぞ」という風刺漫画が載せられている。中学校教科書には「我々の言葉を禁止し、日本語だけを使うようにして、我々の歴史の教育も禁じた。ハングルで刊行された新聞も廃刊させ、我々の言葉と歴史に対する研究を禁止させた。‥‥と。日本の中学校歴史教科書でも「学校では朝鮮史を教えることを禁じ、日本史や日本語を教えて、日本人に同化させる教育を行いました」とある。果たしてそれは真実だったのであろうか？

そもそもハングルは１５世紀に李朝第四代世宗が学者を集めて作らせたと言われているが、当初から諺文〔(オンモン）＝漢字より品のない、程度の低い文字〕として忌（イ）み嫌われ、公文書では一切使われなかったのである。李朝時代の学者はハングルで書かれた文章を読むことさえ恥辱（ちじょく）だと思っていたのだ。更に朝鮮が独自の文字を作ることは、宗主国への反乱を意味する危惧もあって、第１０代燕山（えんざん）君の時代には、この使用を禁止している。誰かが使っていながら告発しない者まで罰せられた。

この捨てられた文字を日本人である福沢諭吉が再発見したのである。明治維新後、朝鮮との交流が始まるや、彼は朝鮮の近代化に情熱を燃やし、慶應義塾に多くの留学生を受け入れると共に、自ら朝鮮史の歴史と文化を学んだ。彼はその中でハングルに着目し「日本の漢字と仮名まじりの文同様、ハングルを駆使すれば難解な漢文を朝鮮語式に、自由に読み下すことが可能となり、大衆啓発の為に役立つはずだ」と考え、漢字ハングル混合文を提唱した。さらに福沢はハングル活字を私費で作り、弟子の衆議院議員‘井上角五郎‘は、この活字を用いて、朝鮮最初の漢字ハングル混合文による新聞「漢城周報」を１８８６年（明治１９年）に発行している。福沢がハングルを再発見し、朝鮮に広めるきっかけを作ったことは紛れもない事実である。



井上角五郎



漢城周報

併合後、朝鮮総督府は当時の規則性を失い、文字種も様々で「文字」としての体系をなしていないハングルを整理する為、日本と朝鮮の学者を集めて「諺文（オンモン）綴字法研究会」をつくり、ハングルを整理研究して「近代的文字体系」にまで高め「普通学校用諺文（オンモン）綴法」を決定して教科書に採用した。その後普通学校の全国的大増設に伴って、朝鮮全土へ普及していったのである。その他総督府は朝鮮語の標準語化も行い学校を通して広め、現在の韓国語になっている。また朝鮮語辞典を１９２０年（大正９年）に完成。１９２４年（大正１３年）には京城帝国大学に朝鮮語・朝鮮文字の講座を開設。ハングルと朝鮮標準語の普及は朝鮮総督府の近代化施策の賜物だったのである。

総督府は朝鮮標準語と共に日本語の普及にも力を入れた。韓国はこれを取り上げて、「日本は朝鮮人から朝鮮語を奪い、日本語を押しつけた」と日本を攻め立てている。当時は日本と朝鮮は一ツの国を成していた。同時に国民同士で言葉が通じなければ大問題である。このような場合、共通した言葉がなければ国は成り立たない。中国政府が五種類の言葉から北京語を共通語として全国に普及させたが、北京語以外の中国語を禁止していないのと同じように、総督府は日本語教育も「共通語の普及」が目的であり、朝鮮語の廃止など、毛頭考えていません。朝鮮語を廃止するつもりなら、ハングル語の教科書発行や朝鮮標準語の普及、朝鮮語辞典の編纂など日本の税金を使ってやる訳はない。日本が朝鮮を「植民地」

と考え、朝鮮人から搾取するつもりなら、わざわざ彼等に日本語を教える必要はない！　むしろ意思疎通が出来ない方が「植民地」の民として使いやすい筈だ。

西洋列強が植民地の民に言葉を教えなかったのは、言葉を教えることによって植民地自体の文化レベルが向上し、人々の意識が高まり、宗主国からの独立運動につながるのを恐れたからである。朝鮮人は「人類史上最悪の植民地統治」と非難するが、朝鮮の普通学校の修身教科書に日本語のカナとハングルが併用され、挿絵に日本の大人が韓国の子供に帽子をとって、道を聞いている場面が描かれている。当時の日本人も韓国人も人間として平等であり、そのことを学校教育でもきっちり教えていた事実がこの一枚の挿絵を見るだけでも良く分かる。

朝鮮語読本巻一

朝鮮語読本巻五

普通学校修身書

１９３８年（昭和１３年）から「朝鮮語」の科目そのものが改正され、日本と同じ学校制度となった。これにともなって朝鮮語が必須科目から選択科目になり、１９４１年（昭和１６年）らは朝鮮語そのものがなくなった。これをもって「朝鮮人から国語を奪ったプロセスである」と韓国は日本を非難している。しかし当時の世界を振り返ってみると、１９３８年（昭和１３年）は日中戦争（支那事変）が本格化した年であり、１９４１年（昭和１６年）には英米との戦いが始まった。　内地の日本人が死にもの狂いで事に当たっている時、総督府としても朝鮮語教育に力を入れる余裕は一時的になくなり、内地と同様に戦時体制を選択する必要が生じたであろう。また戦争という非常事態に当たって、朝鮮人もオールジャパンの一員として、日本人と一致団結して国難をのり越えようという雰囲気が半島に充満し、当時の朝鮮人は、そうすることが日本人と朝鮮人が完全

に平等になるチャンスまたは道だと信じていたのである。　ここで大切な事は、朝鮮語が授業科目から外されたことが「朝鮮語禁止」を意味するものでは全くない！！　ということである。　標準語と方言の関係をみても、方言が教科書から外れたから、方言が禁止されたと述べるのと同じである。

当時、半島に居る日本人は全人口の２０％であった。一ツの村には５～６人の日本人が、駐在所の巡査・学校の先生・水利組合・金融組合の職員が居たに過ぎない。残り８０％の朝鮮人の朝鮮語を禁じられるはずがない事は、まともな常識の有る人なら誰でも理解できよう。

韓国の教科には「ハングルで刊行された新聞が廃刊させられた」と書いてあるが、実際には京城では終戦まで朝鮮が二紙も発行されており、「朝鮮語禁止」など全くなかった。また終戦まで、汽車・電車の切符も、タバコも朝鮮語で買えたし、郵便局でも仮名以外にハングルを使って電報も打つことが出来た。　逆に「朝鮮人の進むべき道」の著者「玄永燮（ゲンエイシユウ）」は三一運動の主導者の一人「朴熙道（ボクキドウ）」と共に「国民精神総動員朝鮮連盟」の常務理事「南次郎」総督に会い、「朝鮮人が完全な日本人となる為には、無意識融合、つまり完全な『内鮮一元化』からなされなければならないのであるから、神道を通じて、また朝鮮語全廃によらねばならない」と朝鮮語の全廃を提案した。

これに対し、南総督は「朝鮮語を廃止するのは良くない。可及的に日本語を普及するのはいいのだが、日本語普及運動も朝鮮語廃止運動と誤解される恐れがあるから、それは出来ない相談である」と言って拒否している。その他、日本語推進を主張する文筆団体がいくつも結成したり、朝鮮人知識人の間で朝鮮語全廃の主張がなされたが、日本は反対し押しとどめていたのが歴史的事実ある。

昭和１６年版総督府発表では、日本語普及状況は昭和１６年度で「やや解し得る者、普通の会話の差し支えない者」が約３９０万人（全人口の１６％）しか居ない。もし朝鮮語を奪われ、日本語も話せない残り８４％の人は一体何語を話したのであろうか？？

朝鮮語使用禁止があったというのは虚報かタメにする作り話に過ぎない。当時の日本人官吏（カンリ）は必死に朝鮮語を勉強していた。私の師「森道基」先生の御尊父は総督府の上級官吏であったが、その息子の森先生も朝鮮語が実に御堪能であった事実をみても、当時は朝鮮語が分からなければ官僚は仕事も出来ず、子供であっても友達も出来なかったのである。総督府は特に民衆に接する

半島の地方庁の職員には、朝鮮語の熟達を奨励し、達成せる職員に奨励手当まで給与している。また「奪う」どころか、近代化に必要な朝鮮語も数多く提供している。

そもそも近代的知識を受け入れる為の言葉が朝鮮語には存在していなかった。現在韓国語の「名詞」の７０％程度が漢語であり、政治・経済・科学・化学・哲学・医学分野は、ほぼ１００％近くが日本語の借用である。社長・専務・・・・、株式会社・合弁会社・水素・酸素・電気・手術・北朝鮮の朝鮮民主主義人民共和国も日本語である。近代に於いて日本が西洋の近代用語を日本語に翻訳して新たな漢字を創造したのであるが、半島の人々は今でも、この日本製の漢語を借用して韓国語を形成している。しかし今やその大事な漢字を韓国も北朝鮮も捨て、ハングル語のみ使用している。呉善花「韓国倫理崩壊」によれば、韓国語文教研究会による一般４０名を対象とした調査で「竪穴式石室発掘」および「高速道路慶州駅予定地」をハングルで書いて、まともに読める人は一人も居なかった、、、、と書いてあった。いずれの理解も奇想天外な答えであり「人を殺してその血を墓の中に入れること」など意味不明な回答だったらしい。これは日本文化と絶縁した反日意識のせいなのであろうか？

「日本は朝鮮の歴史を教えることを禁じた」と教科書で教えているが、嘗ての「朝鮮語読本　巻五」（国立国会図書館蔵）を参照されると、ハングル漢字混合文ですが、多くの朝鮮の輝かしい歴史や文化も実にしっかり教えている事実が明確となろう。

総督府が朝鮮の卓越した歴史を学童たちに教え、朝鮮人としての誇りを育むべく涙ぐましい努力をしたことが、この教科書からも読み取れる。総督府が終止一貫、朝鮮の文化と伝統歴史を「尊重」しつつ、朝鮮の近代化に尽くしたのは紛れもない事実であったことを全世界の人々に知ってほしいものである。今の韓国の教科書や日本の教科書の記述が如何に荒唐無稽であるか、当時の教科書（朝鮮語の）である資料を見れば、誰の目にも明白となるであろう。

日本政府の反論に期待したい。

平成２９年年１１月２６日

志雲会代表　有　馬　正　能